児童教育を支援する「博報財団」が、すぐれた取り組みを顕彰する

第49回「博報賞」受賞

日本文化理解教育部門

石川県◉加賀市立錦城（きんじょう）小学校

歴史ある城下町で先人の想いを受け継ぎ、地域と学校をつなぐ「俳句」「民話」の取り組み

茶の湯や生け花、能楽などが今なお庶民の暮らしに息づく町で、郷土の伝統文化を学び、自ら発信できる子どもを育成する実践に、博報賞が贈られた。

今回の授業では、「俳人になりきる」工夫として、子どもたちはベレー帽をかぶり、短冊に筆ペンで句を詠んだ。「想いを伝えて、互いに学び合うことを大切にしたい」と野村教諭は語る。

伝統を受け継ぎ、発信し、自ら表現する子どもの育成を目指す

錦城小学校がある大聖寺は、江戸時代、加賀大聖寺藩のお膝元として栄えた城下町。町に建つ古刹の全昌寺には、「奥の細道」の旅の途中にこの地を訪れた、俳聖松尾芭蕉の句碑も立つ。

今なお歴史が脈々と息づく町で、錦城小学校が力を注いでいるのが、俳句と民話を通して地域を愛し、伝統を受け継いで、発信し、主体的に表現する子どもの育成だ。

この日、4年生の総合的な学習の時間では、俳句の授業が行われていた。

「今日のめあては、『自分らしい最高の俳句をつくろう』です。俳句のルールは何ですか？」

4年1組担任の野村祐貴教諭の声がけに、元気よく子どもたちの手が挙がる。

「俳人になりきることだと思います」

「季語を入れること。でも、一つ以上入れると季重なりになるから注意する！」

子どもたちの口からは、大人顔負けの知識が飛び出し、日ごろから俳句に親しんでいる様子が伝わる。

錦城小学校では2016年より、国語や社会、総合的な学習の時間を関連付けて教育課程に位置付け、俳句や民話に取り組むようになった。町の伝統文化が失われてしまうのでは、という危機感からだったと左古学校長は振り返る。

「本校の卒業生には、紀行『日本百名山』でも知られる、小説家で俳句にも造詣が深い深田久弥氏もいます。また、加賀の城下町らしく、茶道や生け花、能楽も盛んな地ではありますが、子どもたちは町の伝統や文化について関心が低いのが実情でした。少子高齢化も進む中、子どもたちには、伝統文化を知る地域の方との交流を通して、自分たちの土台となる郷土の伝統を実感してほしいという想いから、活動をスタートしました」（左古校長）

地域との双方向の交流が、活気ある町づくりへとつながる

授業に先だって、子どもたちは、学校から車で30分ほど離れた山中温泉を訪れていた。山あいに佇む自然豊かな温泉地は、芭蕉がことのほか愛し、弟子の曾良と共に長逗留したことでも知られる。この歴史ある地で子どもたちは、芭蕉も訪れたであろう渓谷で、川のせせらぎに耳を澄ませ、落ち葉を踏みしめつつ散策を満喫した。また、芭蕉の館」では、地元の方から俳聖についてのお話を聞くことができたという。

今日の授業では、山中温泉での体験をもとに、俳句を詠み、グループごとに発表していく。

「帰り道　もみじあいさつ　いい日だね」

「紅葉の　葉の間から　差す光」

友だちが発表する句に耳を傾け、「情景が浮かんできてすごくいい！」、「山中温泉の色んな景色が、浮かんでくるのがいいね」と、感想を語り合っていた。相手を認め、共感する様子が印象的だ。

「本校の国語科の研究テーマは、『自分の想いを伝えてお互いに学び合う』なんです。実践を通じて、相手の言葉を受け止め、互いに学び合う姿勢が育っている様子がうれしいですね」（左古校長）

そしてこうした学校活動を支えてくれているのが、地域の方々の存在だ。本校では、子どもたちは積極的に外に出かけ、地域の方たちから話を聞く機会を設けている。

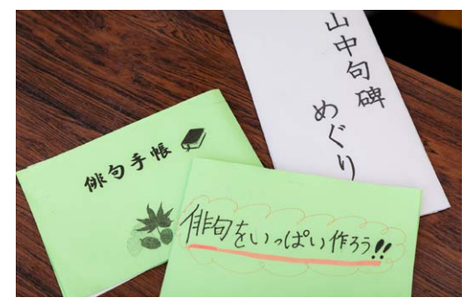
「これまでに、能楽や昔遊びを教えていただく機会がありました。3年生の民話の活動では、地域の語り部の方にご協力いただき、話し方から身振り手振りまでご指導を仰いでいます。そうして、抑揚や表現に自分なりの工夫を加え、子どもたちは『民話語り隊』を結成し、保育園や地域の方の元へ出掛けて行って民話を語りました。また、調べたことや民話を家で語ると、初めて聞く保護者も多く、お互い驚くそうです。子どもたちを通じて今度は、地域の方が学校に興味を持ってくださるようになり、双方向の関係性が築かれて、活気ある町づくりにつながっていると感じています」（左古校長）

「ふるさとのよさをしっかりと身に着け、自分のことばで語ることができる子どもこそが、これからのグローバル社会に羽ばたくことができる。ふるさとが子どもたちの心の支えとなるように継続していきたい」と語る左古校長。郷土を支えに、自ら発信できる子に――貴重な実践の成果は、「景色を見て感じたことを、自分のことばで表せるところがいい」と、俳句のよさを教えてくれた女子児童のことばに、しっかりと表れていた。

「二人きり　赤い川見て　恋に落ち」など、子どもたちは４年生とは思えないほど、表現力が豊かな俳句を詠む。

11月初旬、4年生は松尾芭蕉ゆかりの山中温泉を訪ねて俳聖について学び、紅葉を堪能した。

伝統文化を学ぶ大切さを語る左古校長。



子どもたちは俳句手帳に、季節ごとに感じたことを記していく。

推薦者　お祝いのことば

石川県加賀市教育委員会　山下 修平 教育長

第49回博報賞にて、加賀市立錦城小学校が見事「日本文化理解教育部門」を受賞いたしました。誠におめでとうございます。本市では、平成２年に三谷小学校が「国語教育部門」を受賞して以来、実に28年ぶりの快挙となります。

加賀十万石の城下町を校区に抱える錦城小学校は、地元の伝統や文化に学び、地域の方々との交流を大切にし、主体的に発信する活動を行ってきました。このような地道な活動が認められたことに、大きな喜びを感じます。栄えある博報賞受賞を誇りに、今後も加賀市の学校教育の中心となって活躍していただけるよう期待いたします。